

研究ノート

レジャースタディーズにおけるシリアスレジャー研究の動向 - 日本での導入に向けて -

Review of research on serious leisure in leisure studies
- Towards introduction to Japan -

杉山 昂平

SUGIYAMA, Kohei

E-mail: ksugiyama@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

著者は、東京大学大学院学際情報学府博士課程在籍の学生である。

The author is a student of the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies doctoral course at the University of Tokyo.

要旨：

本研究の目的は、欧米圏のレジャースタディーズにおいてどのような「シリアスレジャー」研究が行われているのかをレビューし、日本におけるシリアスレジャー研究の可能性を探ることである。主要三誌 (*Leisure Studies*、*Leisure Sciences*、*Journal of Leisure Research*) に掲載された70本の論文をレビューした結果、シリアスレジャーに関して「社会的世界の解明」「制約への対処方略の解明」「ジェンダー化の解明」「マイノリティによる実践の解明」「生活の質に対する効果の解明」「シリアスレジャー的側面の照射」「理論的精緻化」「隣接概念との関連の検討」がなされていることが明らかになった。近年は日本でも「趣味」や「アマチュア」に関する研究が登場しているが、シリアスレジャー研究と知見を共有していくことで、今後、余暇研究がさらなる発展を遂げることが期待される。

Summary:

The aim of this paper is to review research on serious leisure in European and American leisure studies, and to explore possibilities of studying serious leisure in Japan. Seventy articles published in major journals (*Leisure Studies*, *Leisure Sciences*, *Journal of Leisure Research*) were reviewed. The result shows that previous research of serious leisure focused on social worlds, strategies for constraints, gender, minorities, effect on well-being, aspects of serious leisure, theoretical elaborations, and relationships to similar concepts. Recently there has been growing interest in amateurs and hobbies in Japan. It is expected that Japanese leisure research will develop by sharing knowledge with serious leisure studies.

キーワード : シリアスレジャー、レジャースタディーズ、趣味、アマチュア

Keywords : serious leisure, leisure studies, hobby, amateur

1 はじめに

本研究の目的は、欧米圏のレジャースタディーズ¹においてどのような「シリアスレジャー」研究が行われているかをレビューし、日本での研究の足がかりとなることである。

「シリアスレジャー」はアマチュアや趣味人による真剣な余暇活動を表す概念である。欧米圏ではポピュラーな研究トピックである²。一方、日本ではシリアスレジャーの研究はほとんど見られない。例えば、2018年11月時点で Google Scholar において「シリアスレジャー」と検索しても、わずか5件しかヒットしない。

一方で、近年の日本では、社会学や教育学などの分野において「趣味」や「アマチュア」に関する研究が継続的に出版されてきている (e.g. 木村 2017, 宮入 2015, 杉山ほか 2018, 高橋 2015, 歌川 2019)。これらの研究がシリアスレジャー研究と知見を共有していくことで、余暇研究のさらなる発展につながると期待できる。

では、「シリアスレジャー」概念を用いることで、具体的にどのような研究が可能になるのだろうか。以下ではこの問いに答えるために、シリアスレジャーの定義を確認したうえで、欧米圏のシリアスレジャー研究の動向をレビューし、どのような研究テーマがあるのかを明らかにしていく。

2 シリアスレジャーとは何か

「シリアスレジャー」は、カナダの余暇社会学者ロバート・ステビンスが1982年に提唱した概念である。ステビンスは、もともとシンボリック相互作用論の文脈において、「アマチュア」の定義を試みていた (Stebbins 1992)。その研究の過程で、彼はアマチュアや趣味人たちにインタビュー調査を行った。すると、彼らは自分の活動を「カジュアル」ではなく「シリアス」であると形容していた。ステビンスはそこから着想を得て、アマチュアや趣味人たちの活動を名指すた

¹ 本研究における「レジャースタディーズ」とは、余暇に関する社会科学的研究の総称である。そのなかには、小澤 (2015) のように社会学やカルチュラルスタディーズの流れをくむものもあれば、Mannell & Kleiber (1997) のように社会心理学の流れをくむものもある。

² 例えば、Bauckham (2013) のように、レジャースタディーズのハンドブックにもシリアスレジャーの項目は立てられている。

めに「シリアスレジャー」の概念をつくりあげた。

2.1 シリアスレジャーの定義

シリアスレジャーの定義は、「アマチュア、趣味人、ボランティアによる活動で、彼・彼女らにとって大変重要で面白く、充足をもたらすものであるために、典型的な場合として、専門的なスキルや知識、経験の獲得と表現を中心としたレジャーキャリアを歩み始めるもの」(Stebbins 2015: 5) である。すなわち、シリアスレジャーの本質は、長期的に専門性を追求して楽しむことにある。逆に、特別な訓練を必要とせず一時的に楽しむ活動は「カジュアルレジャー」となる。例えば、漫然とテレビを見ることは専門的なスキルや知識を必要としないためカジュアルレジャーであるが、アマチュアの映画づくりは映像制作の専門性を必要とするためシリアスレジャーになる。

シリアスレジャーの実践者は、アマチュア、趣味人、ボランティアの3種に区分される。「アマチュア」とは、プロフェッショナルが存在する領域（芸術、科学、スポーツなど）におけるシリアスレジャーの実践者を指す³。一方、プロフェッショナルが存在しない領域では、シリアスレジャーの実践者は「趣味人」となる。この区別によれば、プロも存在するオーケストラ活動に打ち込んでいる者はアマチュアとなり、プロは存在しない切手収集に打ち込んでいる者は趣味人となる。あえてこうした区別が存在しているのは、アマチュアを定義しようとしたステビンス元来の研究関心によるものだろう。また、「強制によらない自発的な手助け」の実践者が「ボランティア」とされている。

2.2 シリアスレジャーの特徴

ステビンスは、シリアスレジャーの6つの特徴を挙げている。すなわち、根気強さの必要性、キャリアの

³ なお、ステビンスは、「信念に基づく仕事」とシリアスレジャーが双方ともに「真剣な追求」であり、生計を立てるという点以外に、本質的な違いはないとしている (Stebbins 2015)。信念に基づく仕事には、スポーツやエンターテインメント分野におけるプロフェッショナルから、社会起業家までが含まれる。ステビンスのシリアスレジャー論では、生計を立てるという意味での仕事と余暇の区別よりも、自己充足をもたらす活動を、自発的に追求しているかどうか重要な区別となっている (Stebbins 2010)。

存在、専門知に基づいた努力の要求、自己実現などの持続的利得の享受、アイデンティティの構築、独自のエトスの存在、である。シリアスレジャーの実践は手軽なものではなく、時に困難に直面しながら粘り強く努力する必要がある。一方で、シリアスレジャーは、そうした「コスト」を越える「利得」をもたらす。自己実現や自己表現、あるいは仲間たちと社交することで自己充足が果たされるのである。だからこそ、アマチュアや趣味人はシリアスレジャーに動機づけられ、延いてはシリアスレジャーをアイデンティティやライフスタイルの一部、生活の中心的な興味として位置づけるのである。

では、以上の定義および特徴からなるシリアスレジャーは、レジャースタディーズにおいてどのように研究されてきたのだろうか。この問いに答えるために、本研究では欧米圏の学術誌を対象に、シリアスレジャー研究のレビューを行った。

3 レビューの方法

3.1 対象

レビューでは、欧米圏のレジャースタディーズを代表する学術誌として、*Leisure Studies* (イギリス発行)、*Leisure Sciences* (イギリス発行)、*Journal of Leisure Research* (アメリカ発行) を取り上げた。2018年11月までの時点で各誌に掲載された論文のうち、タイトルまたはキーワードに「serious leisure」を含むものを検索した。その結果、70本の論文が該当した。

3.2 レビューの方法

レビューの方法として、ナラティブレビュー (Baumeister & Leary 1997) を採用した。70本の論文を対象に、シリアスレジャーに関してどのような問いが設定され、どんなテーマで研究されてきたのかを分析した。特に、各論文のリサーチクエスションの核となる概念に注目しながら、類似・共通する研究テーマを集約し、カテゴリ化していった。

4 レジャースタディーズにおけるシリアスレジャー研究の動向

レビューの結果、シリアスレジャー研究のテーマは、

表1に示す8個のカテゴリから表せた。もちろん、各論文の内容は必ずしもひとつの研究テーマに収まるものではない。だが、少なくともいずれかに該当するようにカテゴリを構成してある。以下の節では、それぞれのテーマに関して、具体的にどのような研究がなされているのかを明らかにする。

表1 シリアスレジャー研究のテーマ

社会的世界の解明
制約への対処方略の解明
ジェンダー化の解明
マイノリティによる実践の解明
生活の質に対する効果の解明
シリアスレジャー的側面の照射
理論的精緻化
隣接概念との関連の検討

4.1 社会的世界の解明

社会的世界の解明は、「様々なジャンルのシリアスレジャーが、どのような価値観やエトスのもと実践されているか」を明らかにする研究を指す。また、「そうしたシリアスレジャーに対して、アマチュアや趣味人がいかに動機づけられ、何を得ているのか。いかに価値観やエトスを内面化していき、レジャーキャリアを築いていくのか」を研究するものもある。

社会的世界が解明されてきたシリアスレジャーのジャンルは、表2に挙げるとおり多種多様である。例えば、Patterson et al. (2016) はオーストラリアのブリスベンにおいてアヌサラヨガを実践する15名に対してインタビュー調査を行った。その結果として、ヨガ実践者は「ヒッピー」や「ベジタリアン」などのステレオタイプを持たれやすいが、当人たちはそうしたアイデンティティを持っていないこと、むしろ「個人的な旅路」というライフスタイルとしてヨガを捉えていることが明らかになった。また、レジャーキャリアを築く契機としてヨガフェスティバルが役割を果たすことや、キャリアの途中でインストラクターを目指すという典型的パターンがあることも報告されている。

シリアスレジャーの社会的世界を構成する「制度」に注目した研究も見られる。Shand (2014) は「コンテ

スト」がアマチュアの映画制作を促進していることを、Robinson et al. (2014) は「クラブ」が長距離ランナーとしての価値観の内面化を促していることを指摘している。制度に注目した研究は、あるシリアスレジャーの社会的世界を記述するだけでなく、「なぜ社会的世界がそのような形をとっているのか」、「別の形態はありうるのか」といった形で問いを深められるだろう。

表2 シリアスレジャーの社会的世界に関する研究

論文	対象のジャンル
Baldwin & Norris (1999)	ペットとしての犬の飼育
Bendle & Patterson (2009)	アマチュアアート
Brown (2007)	シャグダンス
Gibson et al. (2002)	アメリカンフットボールファン
Kane & Zink (2004)	カヤック
Littlefield & Siudzinski (2012)	ハイキング
Liu & Stebbins (2014)	合唱
Lu (2017)	囲碁
Mackellar (2009)	フェスティバル
Misener et al. (2010)	スポーツボランティア
Patterson et al. (2016)	ヨガ
Phillips (2014)	スポーツの審判
Robinson et al. (2014)	マラソン
Shand (2014)	映画制作
Thurnell-Read (2016)	ビール

4.2 制約への対処方略の解明

制約への対処方略の解明は、「シリアスレジャーを制約する諸条件に対して、アマチュアや趣味人がどのように交渉したり、対処したりしているのか」を明らかにする研究を指す。シリアスレジャー内部の社会的世界ではなく、その外部にある生活領域との関係が扱われている。

例えば、仕事や宗教生活はシリアスレジャーの制約となる。あるいは、トライアスロンのような野外の競技では悪天候のリスクもある(Lamont et al. 2014)。そうした制約に対し、趣味人やアマチュアは、活動の優先順位を判断するという認知方略を用い、綿密な計画

を立てつつも、一方で柔軟にスケジュールを変更する、といった行動方略で対処している(Gillespie et al. 2002, Kennelly et al. 2013, MacCosham 2017)。他にも、仕事の都合で欧米諸国から中国に移住したランナーが、新天地でランニングを意味づけなおしていることも報告されている(Ronkainen et al. 2017)。

4.3 ジェンダー化の解明

ジェンダー化の解明は、「シリアスレジャー実践がジェンダーによっていかに異なるのか」を明らかにする研究を指す。4.2節で取り上げた「仕事」は一般的にレジャー実践を制約するが、「ジェンダー」は特に女性に制約を課す。このことはレジャースタディーズが長らく提起してきた問題である(小澤 2015)。

研究では、女性というジェンダーがシリアスレジャーにどのような制約となっているか、それに対して女性はどうに対処しているかが調査されている。イギリスの海洋少年団を指導するボランティアは、女性の場合、レジャーキャリアの天井に「ふた」がされてしまう(Raisborough 2007)⁴。また、登山をする女性は、男性に劣らない身体などを象徴にして自身のアイデンティティを構築する一方、女性にかかる育児の負担によって登山が困難になることもある(Dilley & Scraton 2010)。

そうした女性に課せられた制約への対処方略として、家庭でも継続しやすいようキルトづくりのやり方を調整したり(Stalp 2006)、逆に、家事労働から解放されるタイミングでベリーダンスを始めたりすることもある(Kraus 2014)。

また、同じ女性長距離ランナーのなかでも、フルマラソンの経験者の方が、ハーフマラソンのみの経験者よりも、制約対処の効力感や、家族の支援などに勝っていることも報告されている(Wenger et al. 2015)。フルマラソンの経験者は女性のなかでも、収入や家庭環境が恵まれた層であり、同じ女性のなかでも直面する

⁴ 一方で、海洋少年団は「年代の利点」があるために、女性が続けやすい側面もある。海洋少年団への関与は、女性がティーンエイジャーの時に、少年団の一員になることで始まる。そこから成人した場合、海洋少年団でのボランティアに理解のあるパートナーを得るなど、活動を継続しやすいライフスタイルを選択する余地がある(Raisborough 1999)。

状況には差がある。

シリアスレジャーへのパートナーの支援に関する研究も見られる。ランナーにとって、パートナーの支援が手厚い場合には、余暇と家族の対立は緩和される (Goff et al. 1997)。また、カップルで同じドッグスポーツを実践するケースもある (Hultsman 202)。一方、そうした支援は、家事を協力してくれないパートナーへのストレスを感じつつ行われているのも事実である (Lamont et al. 2017)。

こうしたジェンダー化の実態を、女性自身がどのように意味づけているのか明らかにした研究もある。Beggan & Pruitt (2014) は、社交ダンスにおける男性がリードし、女性がフォローするという制度を、女性自身がどのように理解しているのかについてインタビューしている。女性のなかには、ジェンダー規範の存在を本質主義的に理解している者もいれば、20世紀初頭に生まれたダンスなので時代的にしょうがないと距離をとって理解している者もいた。ポルノグラフィを楽しむ女性の存在 (Parry & Light 2014) など、女性自身のジェンダーに対する理解を検討しうる対象は幅広い。

4.4 マイノリティによる実践の解明

女性に限らず、「マイノリティによっていかにシリアスレジャーが実践されているのか」を明らかにする研究も行われている。

エスニックマイノリティを対象にしたものでは、韓国系アメリカ人は、自分たちの遊びのスタイルが他のアメリカ人と異なると感じるため、韓国系どうして遊びがちなこと指摘したもの (Lee et al. 2011) や、アメリカの大学に通うアジア系の留学生はシリアスレジャーへの参加を通して仲間からの社会的サポートを獲得し、それが大学への適応に貢献していることを明らかにしたもの (Lee et al. 2018) がある。

このほかに、知的障害者のシリアスレジャーを対象にしたものもある。Patterson & Pegg (2009) は、ブリスベンの余暇支援プログラムに参加する知的障害者たちが、シリアスレジャーを通して自信を得たり、友人をつくったりしていることを報告している。Rossow-kimball (2017) は、グループホームに住む知的障害をもったカナダ先住民にとって、自らの文化に関与する

ことがシリアスレジャーになっていることを明らかにしている。

レジャーではマジョリティとマイノリティのあいだに不均等がある一方で、シリアスレジャーとしてマイノリティが主体性を発揮する場合もあるようだ。

4.5 生活の質に対する効果の解明

生活の質に対する効果の解明は、「シリアスレジャーへの参加が、成人の生活の質にどのように寄与するのか」を明らかにする研究を指す。

台湾におけるラグビー (Cheng et al. 2016) や、オーストラリアにおけるガーデニング (Cheng et al. 2017) のように、シリアスレジャーは高齢者にも積極的に実践されている。そして、シリアスレジャーの実践は、高齢者の主観的ウェルビーイング (Heo et al. 2010)、生活満足度や身体的・精神的健康 (Heo et al. 2013, Yao et al. 2018)、うつ病の少なさに相関する (Heo et al. 2018) ことが明らかになっている。高齢者以外の場合でも、成人の生活においてシリアスレジャーと生活の質が関係することは広く報告されている (Kim et al. 2011, Litawa 2018)。

こうした知見から、シリアスレジャーが生活の質を高めると解釈することもできる。一方で、「生活の質が高い者がシリアスレジャーを実践できているのではないか」と問うこともできる。シリアスレジャーを実践できない高齢者はどのような人々かを明らかにすることも必要だろう。

4.6 シリアスレジャー的側面の照射

シリアスレジャー的側面の照射は、「日常的な感覚ではレジャーとは思われていない活動に、どのようなシリアスレジャーとしての特徴があるのか」を明らかにする研究を指す。「楽しんで活動されている」ことの意外性に着目するのが特徴である。

例えば、市民ボランティアとして地域をより良くする活動は、団体へ参加 (Arai & Pedlar 1997, Gallant et al. 2013) するだけでなく、高校で課せられる義務 (Gallant et al. 2013) として行っても、楽しく根気強い努力を通じた自己実現を可能にし、シリアスレジャー的側面をもつ。同様に、歴史的場面を演じるリビング

ヒストリー活動 (Hunt 2004) や、プロとアマチュアの共同制作演劇 (Perry & Carnegie 2013)、2012年のロンドンオリンピックのボランティア活動 (Wilks 2016) もシリアスレジャー的側面を持っていた。Jones et al. (2001) は、生涯学習をシリアスレジャーとして政策に位置づけることを提案している。

こうした側面からは、「シリアスレジャーが権力によって余暇善用されるのではないか」という問いも引き出される。その一方、公共的意義のある活動が義務感や嫌々ではなく、楽しく実践可能であるという可能性も見えてくる。

4.7 理論的精緻化

理論的精緻化は、ステビンズが提唱した「シリアスレジャー」概念を、以下に挙げる観点から精緻化しようとする研究を指す。

4.7.1 測定方法の開発

一点目は、測定方法の開発である。Gould et al. (2008) は、18因子54項目からなる Serious Leisure Inventory and Measure (SLIM) を開発し、質問紙によるシリアスレジャーの測定を可能にした。さらに、Gould et al. (2011) ではチェスプレイヤーを対象に SLIM における測定バイアスの存在を検討し、共通方法バイアスが存在していることを確かめた。そのうえで、バイアスを統制し、各因子において最も説明力のある18項目を特定している。

4.7.2 構成概念の改善

二点目が、構成概念の改善である。2.2節で述べたように、ステビンズはシリアスレジャーの特徴を6つ挙げていた。これらの特徴を意味する構成概念を改善しようとする研究が行われている。

例えば、Heo et al. (2012) は6つの特徴の関係をモデル化し、「根気強さ」「キャリアの可能性」「キャリアの発展」「努力」が基底的な要素であるとしている。

一方、Jones (2000) は、「コスト」と「利得」の関係を検討した。ステビンズは、シリアスレジャーが自己実現などの利得をもたらすために、根気強さやコストをかけてでも行われるという「利得仮説」を提唱して

いる。Jones (2000) は利得仮説では、「あまり成功しておらず利得を得られなさそうなシリアスレジャーに、人々がなぜ長期に参加し続けるのか」を説明できないとする。そして、イングランドのプロサッカー3部リーグに所属するルートン・タウンFCのファンが、なぜファンであり続けるのかをインタビューした。その結果として、ファンであり続けることの「コスト」が「利得」を上回っているように見える場合でも、「内集団びいき」「外集団減損」「非現実的楽観主義」「声」によって代償行動がなされていることを明らかにした。そして、これらの代償行動をシリアスレジャーのモデルに組み込むよう提案している。

一方、Lamont et al. (2015) は、「コスト」と「根気強さ」が区別できない概念であり、むしろ「制約」と「制約に対する交渉」の概念に置き換えた方がよいと提案している。それに対し、Stebbins (2016) は、「コスト」はシリアスレジャーを実践するに当たって発生する負荷であるのに対し、「制約」はあらかじめシリアスレジャーがどの程度実践可能かを定める環境条件であること、さらに「根気強さ」はスキルや知識の獲得欲求であるため、概念の置き換えはできないと反論している。

4.7.3 シリアス／カジュアル二分法の克服

三点目が、シリアスレジャー／カジュアルレジャーの二分法の克服である。これはステビンズの議論が、シリアスレジャーとカジュアルレジャーを離散的なカテゴリとして定義・分類する類型論になっていることを課題としている (Veal 2017)。

Shen & Yarnal (2010) や Derom & Taks (2011) は、シリアス／カジュアルとはふたつの極であって、その間は連続しているのではないかと主張している。例えば、Shen & Yarnal (2010) がサーベイした「レッドハットソサイエティ」に参加する女性たちは、カジュアルレジャー的な社交を楽しみながら、同時にシリアスレジャー的な自己実現を追求していた。同じジャンルの活動でも、シリアスに行う者もいれば、カジュアルに行う者もある。それゆえ、あるレジャーを「シリアスレジャー」か「カジュアルレジャー」かに分類しようとするのは非生産的である。

二分法の批判的検討を通し、Veal (2017) は、「レジャー経験における『シリアスさ』の程度の違いや変化を記述しつつ、それがどのようなメカニズムのもと発生しているのか」を説明するのが、これからのシリアスレジャー研究にとって必要だとしている。

4.8 隣接概念との関連の検討

その他の研究としてシリアスレジャーと隣接概念の関係性を検討したものがある。隣接概念には、レクリエーションの専門志向化 (Scott 2012, Scott & Godbey 1994, Scott & Shafer 2001, Tsaur & Liang 2008)、レクリエーションへの関与 (Cheng & Tsaur 2012)、義務感 (Gallant et al. 2017)、制約交渉 (Lyu & Oh 2015)、レジャーアイデンティティの顕在化 (Shamir 1992)、フロー体験 (Mannel et al. 1988) がある。

このうち、「レクリエーションの専門志向化」は、4.7.3 項で述べた、シリアス／カジュアル二分法の克服に大きな影響を及ぼしてきた。レクリエーションの専門志向化とは、主に社会心理学的なレジャー研究において発展してきた概念で、「レジャー経験の蓄積によってレジャー行動や態度が、専門的な技術を要する特殊な形態に変容していくこと」を指す (二宮ほか 2002)。シリアスレジャーに非常に近い概念であるが、類型論に陥らず、同じ余暇活動のなかで専門志向化の度合いが違うことに着目する強みがあった。それゆえ、Scott (2012) は、レクリエーションの専門志向化研究とシリアスレジャー研究の「結婚」を説きつつ、これからの研究では「シリアスさ」の度合いに着目するよう促したのである。

5 日本での導入に向けて

以上のように、欧米圏のレジャースタディーズでは、シリアスレジャーに関して「社会的世界の解明」「制約への対処方略の解明」「ジェンダー化の解明」「マイノリティによる実践の解明」「生活の質に対する効果の解明」「シリアスレジャー的側面の照射」「理論的精緻化」「隣接概念との関連の検討」がなされていた。

1 章でも述べたように、近年の日本では「趣味」や「アマチュア」に関する研究が登場しており、それらはシリアスレジャー研究と共通の関心をもつ。例えば、宮

入 (2015) が対象とした「発表会」は、Shand (2014) が扱ったアマチュア映画「コンテスト」と比較できるだろう。あるいは、仕事と演劇を両立させようとする社会人劇団を対象にした高橋 (2015) は「制約への対処方略の解明」を行う研究に、日本における女子のたしなみとしての音楽を辿った歌川 (2019) は「ジェンダー化の解明」を行う研究に連なると考えられる。他にも、木村 (2017) や杉山ほか (2018) は、Littlefield & Siudzinski (2012) などと共に、アマチュアの学習や興味・好奇心の発展を扱った研究として位置づけられる。

こうした日本の研究がシリアスレジャー研究と知見を共有していくことで、今後、余暇研究がさらなる発展を遂げることが期待される。

■ 謝辞

本研究は2018年度第1回レジャースタディ部会において発表した内容をもとにしています。研究の改善に向けた建設的なコメントをくださった参加者のみなさまに感謝いたします。

■ 参考文献

- Arai, S. M., & Pedlar, A. M. 1997. Building Communities Through Leisure: Citizen Participation in a Healthy Communities Initiative. *Journal of Leisure Research*, 29(2): 167-182.
- Baldwin, C. K., & Norris, P. A. 1999. Exploring the Dimensions of Serious Leisure: "Love Me—Love My Dog!" *Journal of Leisure Research*, 31(1): 1-17.
- Bauckham, D. 2013. Serious Leisure. In Blackshaw, T. (ed.). *Routledge Handbook of Leisure Studies*. Routledge, pp. 443-455.
- Baumeister, R. F. and Leary, M. R. 1997. Writing narrative literature reviews. *Review of General Psychology*, 1(3): 311-320.
- Beggan, J. K., & Pruitt, A. S. 2014. Leading, following and sexism in social dance: change of meaning as contained secondary adjustments. *Leisure Studies*, 33(5): 508-532.
- Bendle, L. J., & Patterson, I. 2009. Mixed Serious Leisure and Grassroots Organizational Capacity: A Study of Amateur Artist Groups in a Regional Australian City. *Leisure Sciences*, 31(3): 272-286.
- Brown, C. A. 2007. The Carolina Shaggers: Dance as Serious Leisure. *Journal of Leisure Research*, 39(4): 623-647.
- Cheng, E. (Hui-P., Pegg, S., & Stebbins, R. 2016. Old bodies, young hearts: a qualitative exploration of the engagement of older male amateur rugby union players in Taiwan. *Leisure Studies*, 35(5): 549-563.
- Cheng, E., Stebbins, R., & Packer, J. 2017. Serious leisure among older gardeners in Australia. *Leisure Studies*, 36(4): 505-518.
- Cheng, T.-M., & Tsaur, S.-H. 2012. The relationship between serious

- leisure characteristics and recreation involvement: a case study of Taiwan's surfing activities. *Leisure Studies*, 31(1): 53–68.
- Derom, I., & Taks, M. 2011. Participants' Experiences in Two Types of Sporting Events: A Quest for Evidence of the SL-CL Continuum. *Journal of Leisure Research*, 43(3): 383–402.
- Dilley, R. E., & Scraton, S. J. 2010. Women, climbing and serious leisure. *Leisure Studies*, 29(2): 125–141.
- Gallant, K., Arai, S., & Smale, B. 2013. Serious Leisure as an Avenue for Nurturing Community. *Leisure Sciences*, 35(4): 320–336.
- Gallant, K., Smale, B., & Arai, S. 2017. Measurement of feelings of obligation to volunteer: the *Obligation to Volunteer as Commitment* (OVC) and *Obligation to Volunteer as Duty* (OVD) scales. *Leisure Studies*, 36(4): 588–601.
- Gallant, K., Smale, B., & Arai, S. 2010. Civic Engagement Through Mandatory Community Service: Implications of Serious Leisure. *Journal of Leisure Research*, 42(2): 181–201.
- Gibson, H., Willming, C., & Holdnak, A. 2002. "We're Gators ... Not Just Gator Fans": Serious Leisure and University of Florida Football. *Journal of Leisure Research*, 34(4): 397–425.
- Gillespie, D. L., Leffler, A., & Lerner, E. 2002. If it weren't for my hobby, I'd have a life: dog sports, serious leisure, and boundary negotiations. *Leisure Studies*, 21(3–4): 285–304.
- Goff, S. J., Fick, D. S., & Oppliger, R. A. 1997. The Moderating Effect of Spouse Support on the Relation Between Serious Leisure and Spouses' Perceived Leisure-Family Conflict. *Journal of Leisure Research*, 29(1): 47–60.
- Gould, J., Moore, D., Karlin, N. J., Gaede, D. B., Walker, J., & Dotterweich, A. R. 2011. Measuring Serious Leisure in Chess: Model Confirmation and Method Bias. *Leisure Sciences*, 33(4): 332–340.
- Gould, J., Moore, D., McGuire, F., & Stebbins, R. 2008. Development of the Serious Leisure Inventory and Measure. *Journal of Leisure Research*, 40(1): 47–68.
- Heo, J., Lee, I. H., Kim, J., & Stebbins, R. A. 2012. Understanding the Relationships Among Central Characteristics of Serious Leisure: An Empirical Study of Older Adults in Competitive Sports. *Journal of Leisure Research*, 44(4): 450–462.
- Heo, J., Lee, Y., McCormick, B. P., & Pedersen, P. M. 2010. Daily experience of serious leisure, flow and subjective well-being of older adults. *Leisure Studies*, 29(2): 207–225.
- Heo, J., Ryu, J., Yang, H., & Kim, K. M. 2018. Serious leisure and depression in older adults: a study of pickleball players. *Leisure Studies*, 37(5): 561–573.
- Heo, J., Stebbins, R. A., Kim, J., & Lee, I. 2013. Serious Leisure, Life Satisfaction, and Health of Older Adults. *Leisure Sciences*, 35(1): 16–32.
- Hultsman, W. Z. 2012. Couple involvement in serious leisure: examining participation in dog agility. *Leisure Studies*, 31(2): 231–253.
- Hunt, S. J. 2004. Acting the part: "living history" as a serious leisure pursuit. *Leisure Studies*, 23(4): 387–403.
- Jones, I. 2000. A model of serious leisure identification: the case of football fandom. *Leisure Studies*, 19(4): 283–298.
- Jones, I., & Symon, G. 2001. Lifelong learning as serious leisure: policy, practice and potential. *Leisure Studies*, 20(4): 269–283.
- Kane, M. J., & Zink, R. 2004. Package adventure tours: markers in serious leisure careers. *Leisure Studies*, 23(4): 329–345.
- Kennelly, M., Moyle, B., & Lamont, M. 2013. Constraint Negotiation in Serious Leisure. *Journal of Leisure Research*, 45(4): 466–484.
- Kim, J., Dattilo, J., & Heo, J. 2011. Taekwondo Participation as Serious Leisure for Life Satisfaction and Health. *Journal of Leisure Research*, 43(4): 545–559.
- 木村優里. 2017. 「アマチュア科学者の科学実践の継続を可能にする要因に関する探索的研究 — 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる仮説モデルの生成 —」『科学教育研究』41(4): 398–415.
- Kraus, R. 2014. Becoming a belly dancer: gender, the life course and the beginnings of a serious leisure career. *Leisure Studies*, 33(6): 565–579.
- Lamont, M., Kennelly, M., & Moyle, B. 2017. Perspectives of Endurance Athletes' Spouses: A Paradox of Serious Leisure. *Leisure Sciences*, 1–22.
- Lamont, M., Kennelly, M., & Moyle, B. 2014. Costs and Perseverance in Serious Leisure Careers. *Leisure Sciences*, 36(2): 144–160.
- Lamont, M., Kennelly, M., & Moyle, B. D. 2015. Toward Conceptual Advancement of Costs and Perseverance within the Serious Leisure Perspective. *Journal of Leisure Research*, 47(5): 647–654.
- Lee, C., Sung, Y.-T., Zhou, Y., & Lee, S. 2018. The relationships between the seriousness of leisure activities, social support and school adaptation among Asian international students in the U.S. *Leisure Studies*, 37(2): 197–210.
- Lee, K. J., Dunlap, R., & Scott, D. 2011. Korean American Males' Serious Leisure Experiences and Their Perceptions of Different Play Styles. *Leisure Sciences*, 33(4): 290–308.
- Litawa, A. 2018. Amateur choral singing and its implications for the emotional sphere of adult life – a case study. *Leisure Studies*, 37(4): 466–472.
- Littlefield, J., & Siudzinski, R. A. 2012. "Hike your own hike": equipment and serious leisure along the Appalachian Trail. *Leisure Studies*, 31(4): 465–486.
- Liu, H., & Stebbins, R. A. 2014. Concerted singing: leisure fulfilment in a university faculty chorus. *Leisure Studies*, 33(5): 533–545.
- Lu, W.-H. 2017. Self-Transformation in Go Games: An Autoethnographic Study of a Serious Leisure Pursuit. *Leisure Sciences*, 39(1): 94–107.
- Lyu, S. O., & Oh, C.-O. 2015. Bridging the Conceptual Frameworks of Constraints Negotiation and Serious Leisure to Understand Leisure Benefit Realization. *Leisure Sciences*, 37(2): 176–193.
- MacCosham, B. 2017. Negotiating leisure constraints: the case of an amateur musician with epilepsy. *Leisure Studies*, 36(6): 825–837.
- Mackellar, J. 2009. An examination of serious participants at the Australian Wintersun Festival. *Leisure Studies*, 28(1): 85–104.
- Mannell, R. C. and Kleiber, D. 1997. *A Social Psychology of Leisure*. Venture Publishing.
- 速水敏彦 (監訳). 2004. 『レジャーの社会心理学』. 世界思想社.
- Mannell, R. C., Zuzanek, J., & Larson, R. 1988. Leisure States and "Flow" Experiences: Testing Perceived Freedom and Intrinsic Motivation Hypotheses. *Journal of Leisure Research*, 20(4): 289–304.
- Misener, K., Doherty, A., & Hamm-Kerwin, S. 2010. Learning From

- the Experiences of Older Adult Volunteers in Sport: A Serious Leisure Perspective. *Journal of Leisure Research*, 42(2): 267-289.
- 宮入恭平 (編). 2015. 『発表会文化論——アマチュアの表現活動を問う』青弓社.
- 二宮浩彰, 菊池秀夫, 守能信次. 2002. 「レクリエーションの専門志向化: その研究動向と方法論」『体育学研究』47: 319-331.
- 小澤考人. 2015. 「カルチュラル・スタディーズ」渡辺潤 (編). 2015. 『レジャー・スタディーズ』世界思想社, pp. 72-86.
- Parry, D. C., & Light, T. P. 2014. Fifty Shades of Complexity: Exploring Technologically Mediated Leisure and Women's Sexuality. *Journal of Leisure Research*, 46(1): 38-57.
- Patterson, I., Getz, D., & Gubb, K. 2016. The social world and event travel career of the serious yoga devotee. *Leisure Studies*, 35(3): 296-313.
- Patterson, I., & Pegg, S. 2009. Serious leisure and people with intellectual disabilities: benefits and opportunities. *Leisure Studies*, 28(4): 387-402.
- Perry, R., & Carnegie, E. 2013. Reading Pro-Am theatre through a serious leisure lens: organisational and policy-making implications. *Leisure Studies*, 32(4): 383-398.
- Phillips, P., & Fairley, S. 2014. Umpiring. *Journal of Leisure Research*, 46(2): 184-202.
- Raisborough, J. 1999. Research note: the concept of serious leisure and women's experiences of the Sea Cadet Corps. *Leisure Studies*, 18(1): 67-71.
- Raisborough, J. 2007. Gender and Serious Leisure Careers: A Case Study of Women Sea Cadets. *Journal of Leisure Research*, 39(4): 686-704.
- Robinson, R., Patterson, I., & Axelsen, M. 2014. The "Loneliness of the Long-Distance Runner" No More. *Journal of Leisure Research*, 46(4): 375-394.
- Ronkainen, N. J., Harrison, M., Shuman, A., & Ryba, T. V. 2017. "China, why not?": serious leisure and transmigrant runners' stories from Beijing. *Leisure Studies*, 36(3): 371-382.
- Rossow-Kimball, B., Lavis, M., & Blackhurst, M. 2017. "I can find my own Elder!" Cultural engagement as serious leisure for Aboriginal adults living in non-Aboriginal group homes. *Leisure Studies*, 36(2): 244-255.
- Scott, D. 2012. Serious Leisure and Recreation Specialization: An Uneasy Marriage. *Leisure Sciences*, 34(4): 366-371.
- Scott, D., & Godbey, G. 1994. Recreation Specialization in the Social World of Contract Bridge. *Journal of Leisure Research*, 26(3): 275-295.
- Scott, D., & Shafer, C. S. 2001. Recreational Specialization: A Critical Look at the Construct. *Journal of Leisure Research*, 33(3): 319-343.
- Shamir, B. 1992. Some Correlates of Leisure Identity Salience: Three Exploratory Studies. *Journal of Leisure Research*, 24(4): 301-323.
- Shand, R. 2014. Memories of hard won victories: amateur moviemaking contests and serious leisure. *Leisure Studies*, 33(5): 471-490.
- Shen, X. S., & Yarnal, C. 2010. Blowing Open the Serious Leisure-Casual Leisure Dichotomy: What's In There? *Leisure Sciences*, 32(2): 162-179.
- Sivan, A., Tam, V., Siu, G., & Stebbins, R. 2018. Adolescents' choice and pursuit of their most important and interesting leisure activities. *Leisure Studies*, 1-16.
- Stalp, M. C. 2006. Negotiating Time and Space for Serious Leisure: Quilting in the Modern U.S. Home. *Journal of Leisure Research*, 38(1): 104-132.
- Stebbins, R. A. 2016. Costs, Constraints, and Perseverance. *Journal of Leisure Research*, 48(1): 1-4.
- Stebbins, R. A. 2015. *Serious Leisure: A Perspective for Our Time*. Transaction Publishers.
- Stebbins, R. A. 2010. Social Entrepreneurship as Work and Leisure. *LSA Newsletter*, 85: 30-33.
- Stebbins, R. A. 1992. *Amateurs, Professionals, and Serious Leisure*. McGill-Queen's University Press.
- 杉山昂平, 森玲奈, 山内祐平. 2018. 「成人の趣味における興味の深まりと学習環境の関係—アマチュア・オーケストラ団員への回顧的インタビュー調査から—」『日本教育工学会論文誌』42(1): 31-41
- 高橋かおり. 2015. 「社会人演劇実践者のアイデンティティ——質の追求と仕事の両立をめぐる」『ソシオロギス』39: 174-190
- Thurnell-Read, T. 2016. "Real Ale" Enthusiasts, Serious Leisure and the Costs of Getting "Too Serious" About Beer. *Leisure Sciences*, 38(1): 68-84.
- Tsaur, S.-H., & Liang, Y.-W. 2008. Serious Leisure and Recreation Specialization. *Leisure Sciences*, 30(4): 325-341.
- 歌川光一. 2019. 『女子のたしなみと日本近代——音楽文化にみる「趣味」の受容』勁草書房
- Veal, A. J. 2017. The Serious Leisure Perspective and the Experience of Leisure. *Leisure Sciences*, 39(3): 205-223.
- Wegner, C. E., Ridinger, L. L., Jordan, J. S., & Funk, D. C. 2015. Get Serious. *Journal of Leisure Research*, 47(3): 305-321.
- Wilks, L. 2016. The lived experience of London 2012 Olympic and Paralympic Games volunteers: a serious leisure perspective. *Leisure Studies*, 35(5): 652-667.
- Yang, H. T., Kim, J., & Heo, J. 2018. Serious leisure profiles and well-being of older Korean adults. *Leisure Studies*, 1-10.
- Yoder, D. G. 1997. A Model for Commodity Intensive Serious Leisure. *Journal of Leisure Research*, 29(4): 407-429.

